オーストラリア／サザンクロス大学／語学研修 （2025 年度春期）

オーストラリアでの研修を通して得た成果と価値観の再構築

商経学部　天羽蒼月

私は今回サザンクロス大学英語語学研修に参加させていただきました。参加したことで私自身を成長させる経験を数多くすることができました。私にとってこの語学研修は、はじめての海外経験です。いままでは、ネットや紙などの何かしらの媒体からでしか得ることができなかった情報も、実際に海外に行きリアルな情報を得ることができました。そのため、この研修を通して、他人の手の入った価値観・知識から本物の価値観・知識に変化させることができました。

なぜこの研修に参加したのか。まず挑戦したかったからです。今までに海外渡航の経験はなく、日本語ではない言語での生活、さらにホームステイなど新しいことばかりのこの研修に、挑戦してみたいという意欲から参加を決意しました。またオーストラリアという国での研修であったためより一層参加意欲がありました。オーストラリアは、複雑な歴史的背景と、多様なルーツを持つ人々が共生する多民族国家による多種多様な文化が存在します。そのためオーストラリアという国は、私にとって強い関心を抱いていた国であったため参加する決意をより強固なものにしました。

実際に出発前には、オーストラリアだけではなく日本以外の国に対してある程度の偏見を持っていました。それはやはり治安です。オーストラリアは比較的治安の良い国であることは、事前に調べて把握はしていましたが、それでも初めての海外渡航、日本に比べたら治安に不安を持っていました。さらに、コミュニケーションに対しても不安を抱いていました。今までに身につけてきた英語に対しても、コミュニケーションをとることができるのか不安を持っていましたが、オーストラリアの持つスラングやなまりを知ったときには、現地でコミュニケーションをとることができるのか、より一層不安を感じました。このように治安・言語に対して先入観を抱えた状態で、私の研修が始まりました。本レポートでは、こうした自文化中心的な視点を持っていた私が、現地の地域文化や人々に触れる中でいかにしてその壁を乗り越え、自身の価値観を再構築していったかを考察していきます。

実際にオーストラリアに行きコミュニケーション面で得た経験は、やはり基本的にフレンドリーな人が多く接しやすかったことや英語を用いた会話では、場所や状況で完璧な聞き取りができなくても多少の単語がわかればコミュニケーションをとることができたことが挙げられます。その象徴的な出来事として、私がビリヤードをしていると次から次へとどんどん人が集まってきて、ゲームの途中にもかかわらず「やっていい？」と代わる代わる声をかけてきました。最終的には、彼らと一緒にビリヤードを楽しみました。日本では、見知らぬ他者の活動に断りなく介入することは稀でありますが、自身が経験したこの出来事からオーストラリアでは、このように基本的に人と人との間に壁はなく、「その場を共に楽しむ」という一点において、見知らぬ者同士が瞬時に繋がる瞬間の連続からフレンドリーな人が多いことを強く実感しました。

また主に会話におけるコミュニケーションに対して不安を抱いていましたが、実際にホストファミリーや日常生活を通して、英語だけではなくコミュニケーション全体に対する考え方が変化しました。成長した面としても、ホストファミリーと日常生活を送ることで状況・表情・トーンから完璧な聞き取りはできてないと思うのですが、何を言いたいのかをいちいち日本語に変換しなくてもわかるようになったことが成果として挙げられます。

また自分から伝えようという気持ちも汲み取ってもらい、なんとかコミュニケーションをとることができました。私自身の英語力はまだまだですが、この経験から言語の習熟度よりも相手に伝えたい気持ちが大事であることを学びました。さらに今回、サザンクロス大学で語学研修を行いました。授業では、内容や指示などすべてが英語であったため英語漬けの日々を送りました。また英語を普段から用いて生活している講師たちだったので、細かいニュアンスの違いも学ぶことができ、訳すというよりも感じる英語をサザンクロス大学での語学研修により育むことができたと感じています。また学んだ表現などを家に帰ってすぐ扱ってみるなど、かなり実践的で力が身につく研修を受けることができました。

地域文化・生活面について気付いたのは、オーストラリアのトラムの改札についてです。正直、物理的な障壁がないため無賃乗車も可能であり、日本と違いオーストラリアの乗客の良心にゆだねられた性善説に基づくシステムに見えました。だが詳しく調べてみるとそれは、抜き打ちの検札と高額な罰金制度がセットになっており、基本的には市民を信頼する姿勢ではあるが厳しいルールに基づく存在でありました。それでも日本のように物理的に最初からほぼできないようにしているのではなく、基本的に市民を信頼している姿勢にとても驚き、海外の治安に対する考え方に変化がありました。

また生活面での気付きとしては、食が幅広いことです。これはオーストラリアの多文化社会を示していることでもあります。もともと事前に仕入れた情報から食文化が多様であることは知っていましたが、毎日のように異国の料理を食べることには驚きました。一番驚いたのが、特別の日とかではなく普段の食事のひとつとしてお米を食べていることです。また料理の種類だけではなく、ベジタリアン・ヴィーガン・グルテンフリーなど思想に対応した店も多く存在していたことにも気づきがありました。

最後に、この研修を通して得たり変化したりした自分自身の価値観についてまとめます。出発前に抱いていた不安・偏見は、オーストラリアでの研修を通して実際に経験することで変化し、また新しく自分自身の価値観を築いたと考えています。コミュニケーション面では、言語の習熟度よりも伝えたいという気持ちが本質であることを学ぶことができ、社会システムや食文化からは、自分自身の「日本という単一の基準」からでしか物事を測っていなかったことに気付くことができ、視野を広げることができました。この研修の成果を活かすためには、どのような価値観を持って未来を見据えるべきなのか。不安や偏見を抱いて行動せずに終わらせるのではなく、今回の研修のようにどんどん挑戦し新たな発見を繰り返して自分自身を成長させ続けます。



